

第 3 回試行実施に向けた課題・論点

1. 調査実施について**(1) 調査対象について**

- 第 2 回試行実施では、大学の 2 年生及び最終学年、短期大学の最終学年を対象とした。
- 卒論に関する項目など学年に特化した内容や学年による回答の差異を調査できた点はメリット。
- 第 2 回の調査対象を踏襲してはどうか。

(2) 調査時期について

- 第 1 回調査では 11 月～12 月中旬だった調査時期を、第 2 回試行実施では 2 月とした。
- 回答率が第 1 回と比較して低下しており、①第 1 回と同時期、②その他の時期のいずれかに時期を移動させる（授業実施期間等も踏まえ）ことが考えられる。
- 過去の有識者会議において、実施時期は、新たな課題が生じない限り、第 1 回試行実施と同様の時期とすることとされたことから、可能な限り、第 1 回と同じ 11 月～12 月中旬に調査を行うこととしてはどうか。

(3) 質問項目について

- 第 1 回は 36 問であった質問数は、オンライン授業の実施実態等を把握する等の理由で、第 2 回では 60 問に増加した。質問数の増が回答率の低下につながったとも考えられる。
- 第 1 回試行実施と比較して、平均回答時間が長くなる傾向が見られた。また自由記述ができる質問項目を増やして欲しいとの意見も見られたこと等も踏まえて、本格実施を見据えて調査項目数・内容を精査する必要がある。

(4) その他

- 第2回試行実施においては新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学生に対して十分な周知ができていなかったと考えられるが、回答率の向上に資するような周知方法はないか。
- その他改善事項として考えられるものはないか。

2. 調査結果の取扱いについて

第3回調査結果の取扱い

- 第2回試行実施で設けた集計基準は、特に小規模（60人以下）の学部において、50%の回答率が必要となるため、基準を満たすことができない学部が多かった。
- 短期大学も含め、規模の小さい学部等の回答が適切に含まれるよう、集計基準の見直しをしてはどうか。